

戦略企画会議から

Progress Report from the Strategic Planning Committee

眼科学の先進的研究の進展に向けて

日本眼科学会戦略企画会議第二委員会「国際化・研究」(寺崎浩子委員長)では、「日本の眼科学教育・研究を多方面から援助し、国際的なレベルで眼科学研究を発展させ、発信できるように、人材開発および交流の国際化と研究活動の推進を図る」ことを目的に活動を行っております。その行動計画の大きな柱である先進的研究の推進のために、2つの小委員会が新たに設置されました。「イノベーション促進委員会」(小椋祐一郎委員長)と「眼科ゲノム研究委員会」(中澤 徹委員長)です。

日本の医療費は、医薬品で約3兆円、医療機器でも約1兆円の貿易赤字に陥っています(厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」より)。これは日本で医療を行えば行うほど、外貨が流出することを示しています。昨年秋の日本眼科学会評議員会で、次世代のイノベーションを日本の企業に任せるだけでなく、アカデミアも積極的にこれを後押ししていくべきとの提案があり、戦略企画会議第二委員会の中にイノベーション促進委員会を設置することになりました。サイエンスの結果を産業化につなげ次世代のイノベーションを促

進するための体制について検討が始まっています。

眼科疾患のゲノム研究に関しては、日本から、緑内障、網膜疾患、近視、ぶどう膜炎などの分野で世界に誇る研究成果が創出されています。この動きをさらに推進させるためには、日本の眼科全体でゲノム研究を組織的に進めることが重要であり、戦略企画会議第二委員会の中に眼科ゲノム研究委員会を設置し、その方策について本格的な議論が開始されました。ゲノムワイド関連解析(GWAS)を行うためには膨大なサンプル数が必要となりますが、例えば、対照者のゲノムデータを皆で共有することができれば、研究が加速すると考えられます。

そのほか、第二委員会では本誌8月号「戦略企画会議から」でもご紹介したとおり、網膜色素変性に特化したオールジャパンのレジストリ構築も進めており(<https://convention.jtbcom.co.jp/jrprp/>)、眼科学の先進的研究の進展に向けて多方面から支援活動を行っております。皆様のご理解とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。